

校園長室から



学校教育目標

共に学び共に伸びる子ども

- ・いのちを大切にできる子ども
- ・だれとでも仲良く協力し合う子ども
- ・意欲をもち学習する子ども
- ・ねばり強くはたらく子ども

令和6年10月4日 第24号

月に向かって打て

将棋の話から。現在西山朋佳女流名人がプロ棋士になるための編入試験を受けています。将棋のプロになるには、奨励会という養成機関で戦い3段リーグを突破し4段になければなりません。西山さんは、もう少しのところで4段(次点)だったのですが、かなわず奨励会を退会しています。

先日偶然NHKを見ると、今を時めく藤井聡太七冠王と西山女流名人が戦っているではありませんか。序盤中盤は互角の勝負。最後は大差になりましたが、女流棋士の成長を感じた一局でした。

今将棋の世界では、AI(人工知能)を使って研究するのが主流になっています。20年前、はじめて将棋のソフトが登場したときは、私でもソフトに勝つことができましたが、今ではプロも勝てない。驚異の進化です。

続けてゴルフの中継を何気なく見ていました。選手がショットを打つごとにその飛んで行ったボールの初速、飛び出した角度、そして、とんだ距離が一瞬で一つの情報となって提供されます。大谷翔平選手のホームランもわかり。野球では、ピッチャーの投げたボールのスピートは昔から計測され情報提供されていましたが、今ではボールの回転数やボールの落ち方などが数値で打ち出されます。これまたすごい時代になりました。プロ野球のベンチの映像をよく見ると、タブレットを見ながら情報提供を受けている場面をよく見かけます。今までになかった風景です。

かつて大杉勝男というスラッガーがスランプに落ちこんだ時に、「どうしたら打てるのか」とコーチに聞きました。コーチは、夜空を指さして、「月に向かって撃つのだ」と。大杉選手が即答で「わかりました」と答えたとか。

遠い昔の懐かしいお話です。